



平成28年6月13日
京 都 市
(都市計画局歩くまち京都推進室)

人と公共交通優先の歩いて楽しいまち！

四条通歩道拡幅事業が「国際交通安全学会賞」、 「日本都市計画学会賞」に続き、「土木学会賞」を受賞しました！

この度、昨年10月末に完成した本市の「四条通歩道拡幅事業」が、公益社団法人土木学会の「土木学会賞(技術賞 IIグループ)」(※)を受賞し、6月10日(金)に東京のホテルメトロポリタンエドモンドで表彰式が行われましたので、お知らせいたします。

これまで、四条通歩道拡幅事業は、今回の土木学会の他に、国際交通安全学会から交通の視点、日本都市計画学会からまちづくりの視点で表彰いただくなど、多角的な視点から評価いただいております。

※ 公益社団法人土木学会は、国内有数の工学系団体で「土木工学の進歩および土木事業の発達ならびに土木技術者の資質向上を図り、もって學術文化の進展と社会の発展に寄与する」(土木学会定款)ことを目指し、「學術・技術の進歩への貢献」、「社会への直接的貢献」、「会員の交流と啓発」を活動の柱として、さまざまな活動を展開している団体です。

技術賞 IIグループは、土木技術の発展に顕著な貢献をなし、社会の発展に寄与したと認められる画期的なプロジェクトを対象に選考されます。

■ 贈呈式の様子



土木技術の発展に顕著な貢献をなし、社会の発展に寄与したと認められる画期的なプロジェクトであるとの評価を受け、受賞しました！

これまで四条通歩道拡幅事業は、今回の土木学会の他に、国際交通安全学会から交通の視点、日本都市計画学会からまちづくりの視点で表彰いただくなど、多角的な視点から評価いただいております。



(これまでいただいた楯など)

■ 四条通歩道拡幅事業とは

従来の道路整備は、道路を外側に広げることにより、車道や歩道の環境改善が進められてきましたが、京都市では、市内有数の繁華街である四条通において、人とクルマの通行量と歩道と車道の幅員がアンバランスであることから、道路の全幅は変えずに、車道を減らし歩道を広げ、人と公共交通を優先する道路整備を行いました。

○ 人口100万人を超える大都市のメインストリートの人と公共交通を優先した道路に整備

ここが変わりました！

歩道幅が
最大2倍に

- 車線を4車線から2車線に変更し、**歩道を拡幅**。車イスやベビーカーも通りやすくなりました。
- **テラス型バス停を導入**し、快適にバスをお待ちいただけるようになりました。
- 人の乗降や、5分以内の荷物の積卸しに利用できる**沿道アクセススペース**を設置しました。

整備後



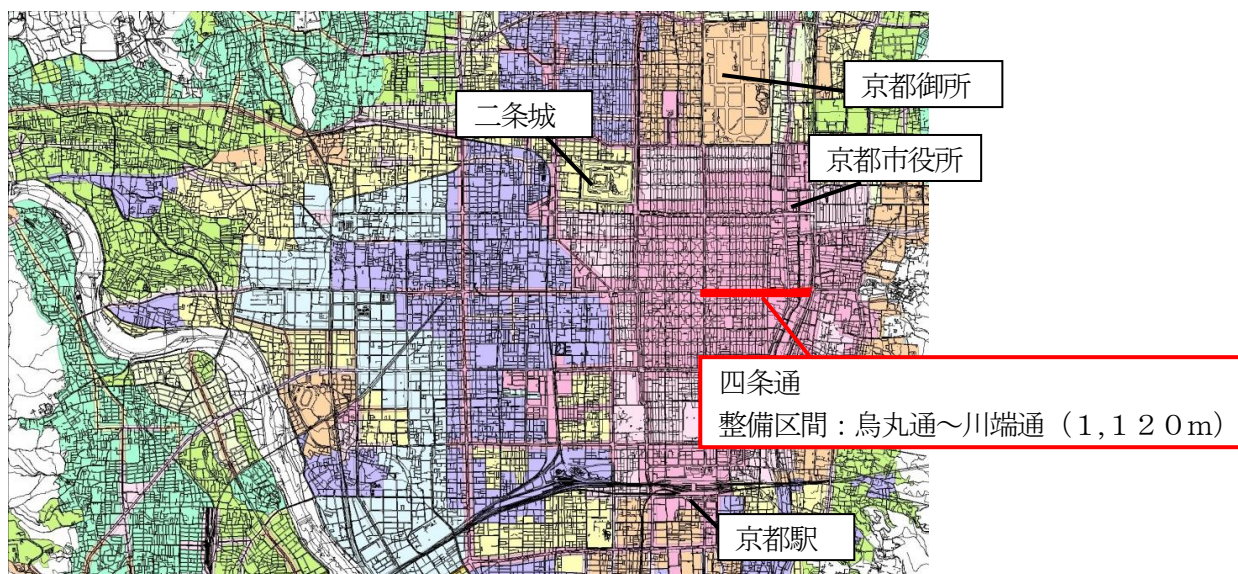
整備前



■ 四条通の概要

1. 位置

四条通は、市内有数の繁華街であり、市内外を問わず多数の方が訪れることから歩行者の通行量は市内で最も多く、また、文化的にも祇園祭の山鉾が巡行するなど、京都を代表する道路です。



2. 交通の特徴

四条通の交通には、以下の2つの大きな特徴があります。

- ① 幅員15mの車道に自動車を利用する2,200人が通行する一方、幅員7mの歩道に7,000人の歩行者が通行しており、整備前の四条通は、**車道と歩道がアンバランスな状況**でした。



※H17 道路交通センサス（四条塚町）休日ピーク時の乗用車交通量 1,154台/時
休日乗用車平均乗車人数（京都市）1.9人/台
四条通を車で通行する人数 1154台×1.9人=2193人≒2200人

【左写真：混雑していたバス停の付近の様子（整備前）】

- ② 市バス、京都バス、京阪バスが運行するなど、バス路線が集中するとともに、地下空間に設置された地下鉄、阪急電鉄、京阪電気鉄道の各駅からの連絡口が多く配置されていることから、**交通結節点（ターミナル）としての機能を有しています**。

■ 整備目的と方針

目的

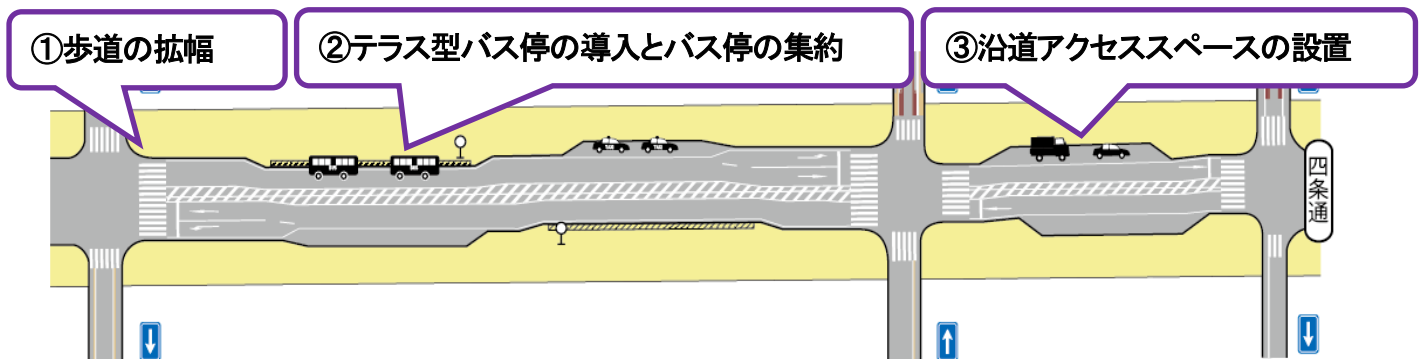
歩行者の快適性と公共交通の利便性を高め、都心の商業施設等へ行きやすくし、**まちの賑わいの創出**を図る

方針

- 既存の道路空間を再配分することで、誰もが快適に買い物を楽しんでいただける歩行空間の確保とバス待ち環境の改善
- 四条通を交通結節点（ターミナル）としてとらえ、路線バスが走行しやすい環境やバス利用者が利用しやすい環境を整備し、公共交通の利便性を高めることで、まちなかへのアクセス機能の向上

■ 整備内容

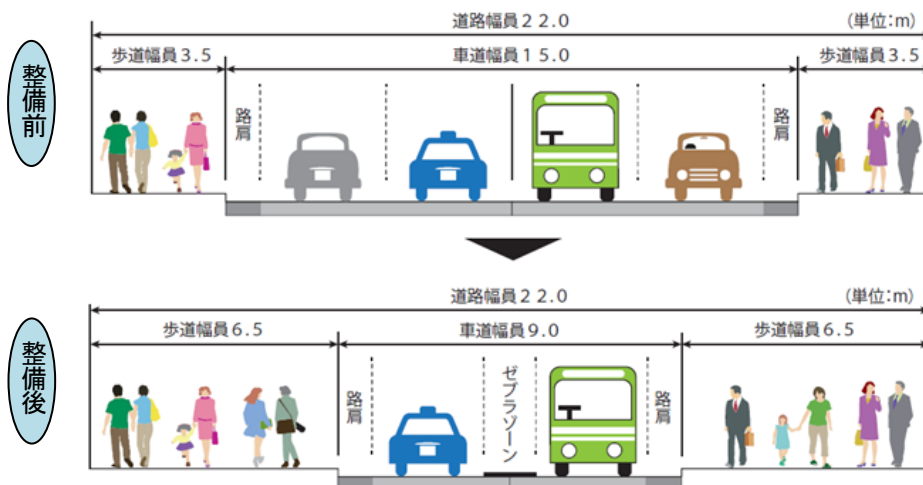
「人と公共交通優先の歩いて楽しい四条通」の実現のため、主に3つの整備を行いました。



①歩道を最大で約2倍まで拡幅

- 3.5mの歩道を最大で約2倍まで広げました。

※歩道幅は、箇所によって増減します



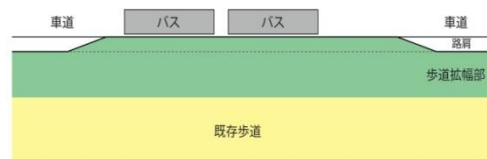
②テラス型バス停の導入とバス停の集約

- バス停は車道に張り出したテラス型に整備しました。



《テラス型バス停の利点》

- ・ バスを待つ利用者の空間が広く取れるようになります。
- ・ バス停に隙間をあげずにバスが停車できることから、バスの乗降がしやすくなります。



【上図 テラス型バス停のイメージ平面図】

- 16箇所に分散しているバス停を東行き西行き合わせて4箇所に集約しました。

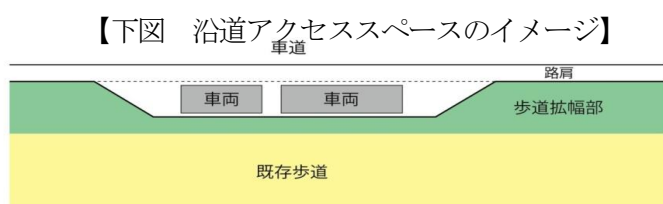


凡例

- …整備前のバス停
- …整備後のバス停

③沿道アクセススペースの設置

- 四条通に用事がある人のために、車を一時的に停車できるスペースを15箇所(32台分)設置しました。

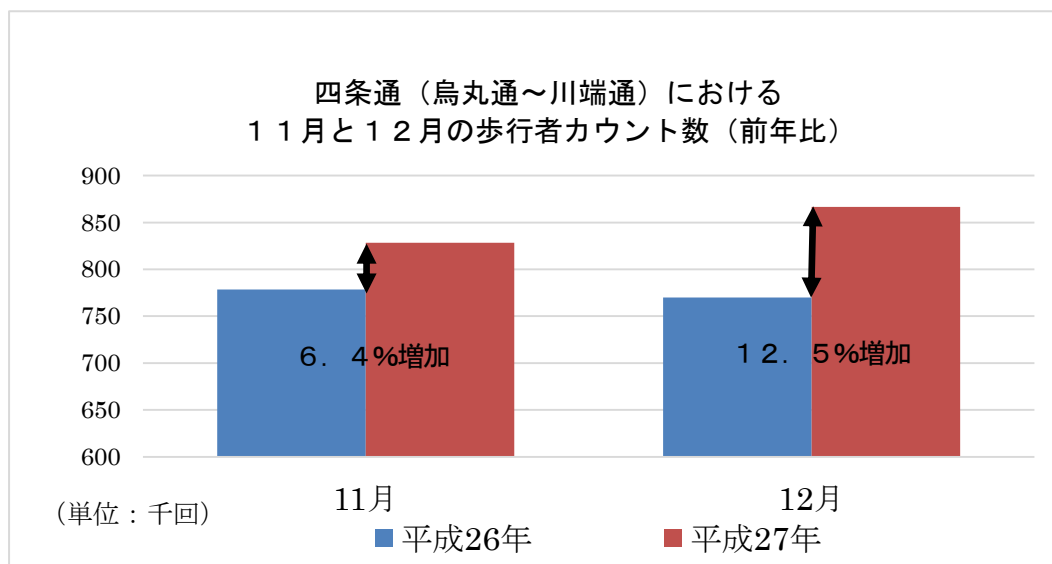


- 【利用可能な対象車両】
- ・短時間で人の乗降を行うために停車する車両
 - ・5分以内の荷物の積卸しを行うために停車する車両

■ 現在の状況

①歩行者の通行量の変化

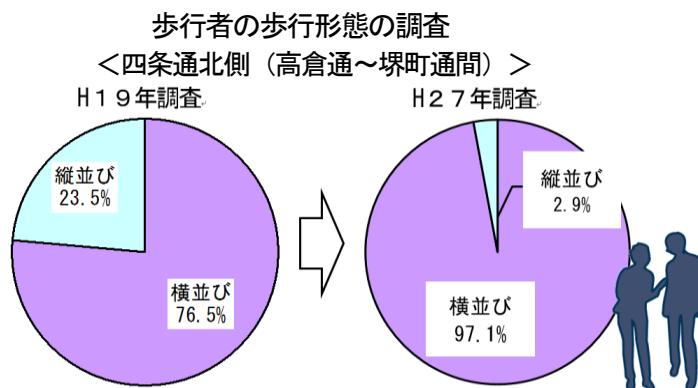
- 平成27年11月1箇月間の歩行者通行量・・・前年比で6.4%増加
- 平成27年12月1箇月間の歩行者通行量・・・前年比で12.5%増加



※ 地元商店街が設置する6箇所の歩行者カウンターの1箇所あたりのカウント数で比較

②歩行者の歩行形態の変化

2人以上で歩いているグループが縦に並んで歩く割合が減り、横に並んで歩く割合が増加

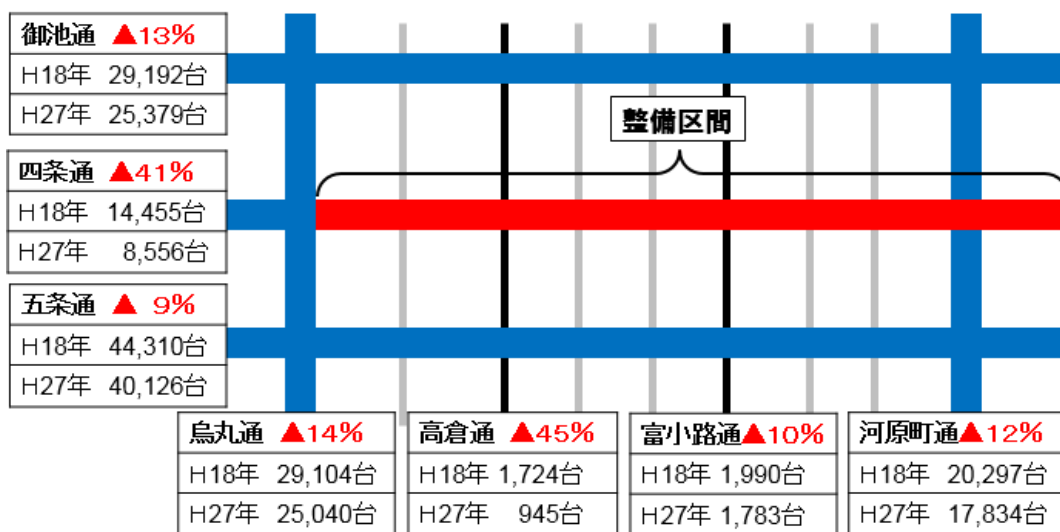


※立命館大学による調査

③四条通・主な周辺道路の12時間交通量の変化（7時～19時）

四条通・周辺の幹線道路の交通量・・・約10年前との比較で**9%～41%減少**

四条通周辺の細街路の交通量・・・約10年前との比較で**10%～45%減少**



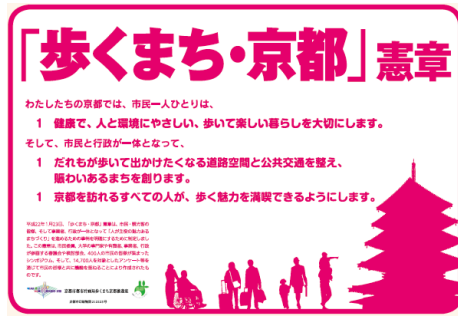
■ これまでの取組

京都市では、自動車交通に過度に依存しない公共交通優先型の交通体系を総合的に構築しつつ、歩くことが楽しくなるようなまちづくりに取り組むことを、平成11年度に京都市基本構想（グランドビジョン）の中で策定、平成13年度には京都市基本計画の中で、「安らぎのある暮らし」、「誰もが安心して暮らせるまち」を実現するため「歩いて楽しいまち」をつくる政策を推進することを決定しました。その後、地元住民や沿道商店街、関係事業者等とともに、平成18年度から議論を開始し、平成19年度と平成22年度には大規模な社会実験も実施しながら、整備のための合意形成を進めてきました。

- 平成11年12月 京都市基本構想（グランドビジョン）
自動車交通に過度に依存しない公共交通優先型の交通体系を総合的に構築しつつ、歩くことが楽しくなるようなまちづくりに取り組む
- 平成13年 1月 京都市基本計画
「安らぎのある暮らし」、「誰もが安心して暮らせるまち」を実現するため、「歩いて楽しいまち」をつくる政策を推進
- 平成17年12月 地元商店街から要望書の提出
「心地よく歩ける四条通」の実現に向けた要望書
- 平成18年 5月～平成22年3月 歩いて楽しいまちなか戦略推進協議会及び幹事会の設置・開催
(協議会6回、幹事会10回開催)
構成：地元住民、商業関係者、交通事業者、学識者
目的：歴史的都心地区において交通問題を解決し、「歩いて楽しいまち」を実現
- 平成19年10月 「歩いて楽しいまちなか戦略」社会実験の実施
四条通の歩道拡幅と路線バス・タクシー専用化など

平成22年 1月

「歩くまち・京都」憲章の制定



「歩くまち・京都」総合交通戦略の策定

88の実施プロジェクトを推進

⇒四条通の整備をシンボルプロジェクトに位置け

平成22年11月～

四条通の交通社会実験の実施

平成23年3月

バス停の集約, 共同荷さばき場の設置, タクシー乗り場の集約など

平成24年 1月

四条通の整備について都市計画決定

平成26年11月

四条通の整備工事着手

平成27年10月末

四条通の整備工事完了

<参考>「歩くまち・京都」総合交通戦略について

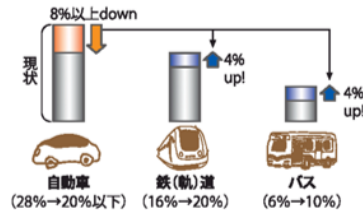
● 「歩くまち・京都」総合交通戦略の策定（平成22年1月制定）

《基本理念》 **クルマを重視したまちと暮らし**



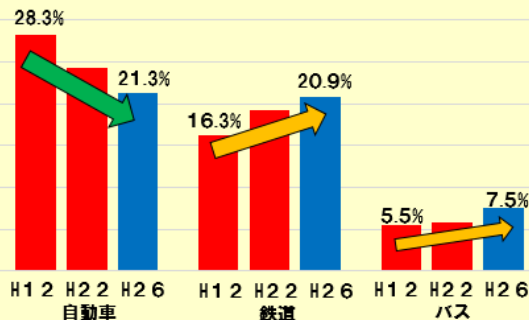
「歩く」ことを中心としたまちと暮らし

自動車分担率を平成12年の28%から20%以下を目指す



● これまでの成果

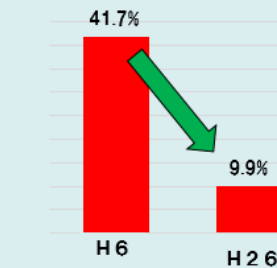
自動車分担率の低減, 鉄道バスの分担率の向上



※平成12年度、平成22年度は京阪神都市圏パーソナルトリップ調査 (70万人 (非外出者含む) が対象)
 平成26年度は京都市独自調査 (市民1,000人を対象としたWEB調査。市民以外の交通はPT調査と同数値として設定。)

観光客のマイカーでの入洛率

平成6年から、
観光客のマイカー利用
... 4分の1に減少



※京都観光総合調査の数値